



整備された野手浜総合グラウンド

## 一般会計は 5億円近い黒字

—平成20年度決算—

一般会計決算額は、歳入総額が130億6929万円、歳出総額が124億8392万円、翌年度への繰越財源8977万円を除くと、4億9560万円の黒字となりました。前年度決算と比較すると、歳入で0・4%増加、歳出で0・3%減少しました。歳入では、市税は市民税所得割及び固定資産税の増加が法人市民税の減少を上回った

# 平成20年度決算と 市の財政状況を お知らせします

平成20年度の各会計の決算がまとまり、9月定例市議会  
で認定されました。  
平成20年度決算の概要と、決算の推移から見た市の財政  
状況について一般会計を中心にお知らせします。

ことから、前年度に比べ5439万円増額、地方交付税は2億4846万円増額の44億1802万円となりました。

一方、景気後退の影響により地方消費税交付金は2720万円減額、自動車取得税交付金は3823万円減額となりました。また、財源不足を補う市債は、前年度の退職手当債が皆減となったことなどから1億1630万円の減額となりました。

歳出では、前年度に比べて、人件費は職員数の純減などにより1億6871万円減額、物件費は医療制度改革による特定健診開始に伴う基本健診委託料の減少などにより5108万円減額、投資的経費は八日市場駅南口広場整備事業の終了などにより460

7万円減額となりました。

一方、補助費等は病院事業会計補助金の増加などにより1億5249万円増額、繰出金は後期高齢者医療特別会計繰出金、介護保険特別会計繰出金の増加などにより9033万円増額となりました。

## 持続性と自律性のある財政運営へ

—市の財政状況の推移—

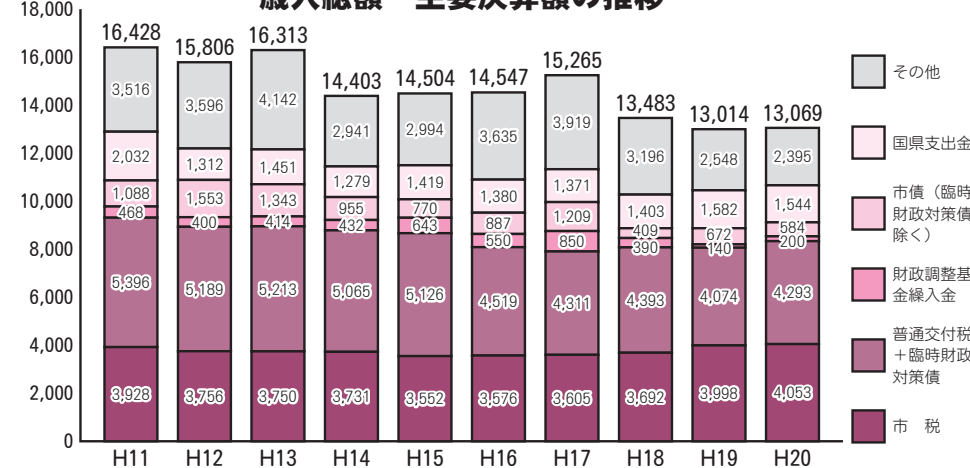
平成20年度決算から市の財政状況を年度別に比較してみます。左ページのグラフは、平成17年度までは旧八日市場市と旧野栄町の決算額を合算しそれぞれ通年ベースの決算に置き換えて、年度別に歳入・歳出及び主な財政指標の推移を表したものです。

主 な 事 業		平成20年度匝瑳市会計別決算額	
		【一 般 会 計】	
野栄総合支所改修事業	8,368万円	歳入	130億6,929万円
市内循環バスの運行	5,763万円	歳出	124億8,392万円
防災行政無線整備事業	1億7,460万円	【特 別 会 計】	
障害者自立支援給付費	2億4,995万円	◇国民健康保険特別会計	
児童手当	2億7,279万円	歳入	49億6,482万円
保育所の運営	5億9,314万円	歳出	49億5,895万円
生活保護費	2億7,853万円	◇老人保健特別会計	
病院事業の運営補助	4億2,416万円	歳入	2億9,267万円
水道企業団水道事業補助	2億5,386万円	歳出	2億8,083万円
環境衛生組合の運営	3億5,946万円	◇後期高齢者医療特別会計	
道路の新設改良費	3億5,129万円	歳入	5億 662万円
消防組合の運営	6億1,715万円	歳出	5億 428万円
野手浜総合グラウンド整備	1億 81万円	◇介護保険特別会計	
主な基金（市の貯金）		歳入	24億4,049万円
財政調整基金	5億9,683万円	歳出	23億3,739万円
減債基金	7万円	◇病院事業会計	
社会福祉振興基金	5億 327万円	収益的収支	収入 26億3,872万円
ふるさと振興基金	1億9,230万円	支出	26億1,653万円
土地開発基金	1億 114万円	資本的収支	収入 1億7,951万円
スポーツ振興基金	8,358万円	支出	3億7,694万円
育英資金貸付基金	1億6,642万円		
学校施設整備基金	9,385万円		

歳入の根幹となる市税は、平成19年度に前年度比3億600万円の増額となりましたが、所得譲与税が振り替わったものであり、実質的な収入増とはなっていません。また、普通交付税（臨時財政対策債を含む）は、三位一体の改革実施前の平成15年度と比較すると8億3300万円の減額となっています。今後、人件費の削減など合併による財政効果は期待できるものの、当面はなお一層厳しい状況が続くことから、市では財政の健全化を最優先課題に、匝瑳市行政改革大綱に基づき、持続性と自律性のある財政運営の実現に取り組んでいきます。

単位：百万円

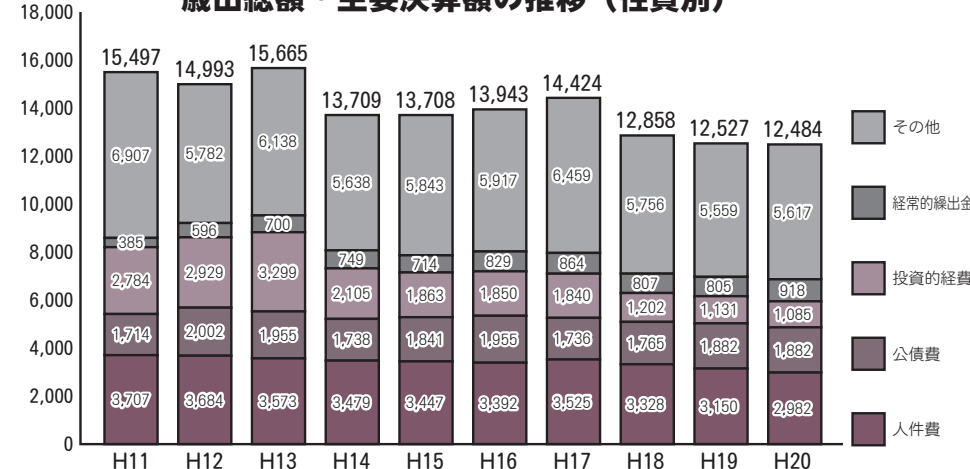
### 歳入総額・主要決算額の推移



- ◆市税  
市民税・固定資産税・軽自動車税・市町村たばこ税など
- ◆普通交付税  
標準的な行政サービスを維持できるように、財源が不足する団体に対して国から交付される財源
- ◆臨時財政対策債  
普通交付税の減額分を補てんするための地方債(その元利償還金は全額が普通交付税措置される)
- ◆財政調整基金繰入金  
財源の不均衡を調整するための積立金(市の貯金)を取り崩した財源
- ◆市債  
国や金融機関などから借り入れた財源
- ◆国・県支出金  
特定の行政目的を達成するために、国や県から交付される財源

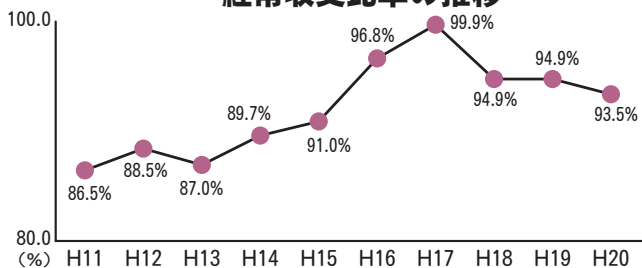
単位：百万円

### 歳出総額・主要決算額の推移(性質別)



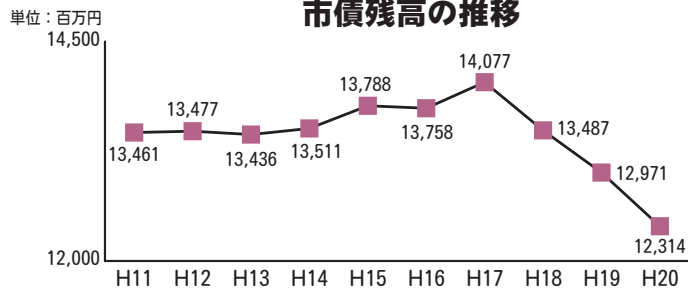
- ◆人件費  
特別職、一般職の給料や議員の報酬など
- ◆公債費  
市債の返済のための利息を含めた経費
- ◆投資的経費  
道路・建物などの建設事業費、用地の購入費、災害復旧費など
- ◆経常的繰出金  
特別会計へ固定的に支出される経費

### 経常収支比率の推移



◆経常収支比率  
地方公共団体の財政構造の弾力性を示す指標。税などが自由に使える財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどのくらい充当しているかをみることで、財政の健全性を示す。

### 市債残高の推移



◆市債  
国や金融機関などからの借入金

**健全化判断比率(平成20年度決算)** 各指標の比率は、全て早期健全化基準を下回りました。

	内 容	匠 瑳 市	早期健全化基準 (黄信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	13.44%	20.0%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計、企業会計の全ての会計の赤字の割合	赤字なし	18.44%	40.0%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	15.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合	102.4%	350.0%	

### 資金不足比率(平成20年度決算)

	内 容	病院事業会計	経営健全化基準
資金不足比率	公営企業ごとの資金の不足額の事業規模に対する割合	資金不足なし	20.0%